令和８年度学校経営計画書

岡山県立早島支援学校

○本校のミッション（使命、存在意義）

県下唯一の病弱部門に肢体不自由部門を併設した特別支援学校として、隣接する南岡山医療センターとの連携をもとに、多様な教育的ニーズのある児童生徒に対して幅広い教育活動を展開し、自立と社会参加の促進を図り、共生社会の実現を目指す。

○内外の環境分析

（国・県・地域等）

・学校所在地の早島町は、県内で一番コンパクトな自治体であると同時に、県下最大の人口密度であることから、関係諸機関との連携をシンプルに行うことができることに加え、人的資源も豊富にあると考える。

・隣接する南岡山医療センターと綿密に連携することができ、児童生徒の緊急対応時や非常変災時において医療による安心・安全な環境の維持が可能である。

・次期学習指導要領の改訂を見据えながら、自立活動の充実と各教科等で育成する資質・能力の定着をはかることが求められている。

・社会に開かれた教育課程の実現に向け、さらなる地域との連携や実社会からの学びを通したキャリア教育の充実が求められている。

・将来の地域生活を想定し、スポーツや文化芸術活動について地域資源を活用した体験を積み重ねていくことが求められている。

・地域の学校や児童生徒が居住する地域の学校と連携した交流及び共同学習、及び地域のニーズに貢献する学習活動のさらなる充実が求められている。

・「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の施行を受け、医療的ケア児の可能性を最大限に発揮させ、将来の自立と社会参加に必要な力を養うための個々のニーズに応じた教育が求められているとともに、保護者の負担軽減のための体制整備の充実が求められている。

・教育公務員としての責務と自覚を一層深め、不祥事の根絶を図る取組の推進が求められている。

（学　校）

・病弱教育、肢体不自由教育の地域へのセンター的機能として、教育相談や授業・専門性に関わる支援や情報発信が求められている。また県内最大の医療的ケア児在籍校として、医療的ケアに関してもセンター的機能が求められている。

・人工呼吸器の使用等、高度な医療を必要とする児童生徒が増加・多様化していることや、教室でのケアが拡充する中で、安心安全な学校生活を送ることができるように効率的、組織的な医療的ケアの実施が求められている。

・新規医療的ケアに係る付き添い期間の短縮や宿泊を伴う学校行事への帯同等、保護者負担の軽減が求められている。

・児童生徒は、素直で明るく人との関わりに興味がある反面、病気や障害による生活経験の不足からやや受け身な面がある。また家庭への支援を必要とする児童生徒もいる。

・児童生徒の重度重複化の傾向に伴い、Ｉ類型児童生徒の集団での学びの場が不足している。

・児童生徒の実態からの課題に対応した多様で柔軟な教育課程の編成や、各教科等と自立活動の関連を明確にした授業づくりが求められている。

・DXハイスクール(R6、7)の取組を通して、リモートワークを想定した職業指導、アバターロボットを使ったコミュニケーション指導、入出力支援装置等を使った学習指導や余暇指導についての指導体制や支援の方法が蓄積されつつある。

・教職員は授業づくりや学校課題の解決等に向け、常に前向きに業務に取り組んでおり、多様な専門性を有する教職員が日常的に教え合ったり学び合ったりする中で自己の専門性、授業力を高めようと日々努力をしている。また若手教員や他の障害種の特別支援学校からの転任者の増加により、教員一人一人に応じた研修等の必要性が高まっている。

・医療的ケア関連をはじめ児童生徒の個人情報を扱うことが多く、その取扱いには特に注意を要する。

・業務の精選や効率化、校務DXによるゆとりの創造、人生を豊かに過ごすための時間管理等が求められている。

・育児や介護制度が拡充する中、多様な勤務形態で働く教職員の増加に伴い、情報共有や役割分担等の連携をより一層適切に行うことが必要となっている。

・PTAについて、より保護者のニーズに沿った活動内容や組織体制にしていく必要がある。

○ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（めざす学校像）

～ともに学び、ともに成長を喜び合える学校～

1 児童生徒が、思いや考えを伝え、生き生きと学ぶ学校【特別支援教育の充実】
2 授業力向上に努め、家庭や地域社会に信頼される学校【専門性の向上】
3 医療、福祉等と連携することで、児童生徒の学びを支える学校【支援体制の構築】

○具体的な学校経営目標・計画

1 子どもの豊かな学びを支える専門性・授業力の向上

（1）主体的な学びを実現する教育活動の推進

ICTや入出力支援装置等の活用を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させた授業づくりを推進する。児童生徒が自ら考え、表現する意欲・態度を高めるとともに、小・中・高及び卒業後を見据えたキャリア発達を促す指導支援と進路指導の充実を図る。

（2）自立活動及び各教科の指導の一層の充実

自立活動と各教科との関連について整理し、障害による困難さに対応しながら、各教科等で育成する資質・能力の定着を図ることができる授業づくり・授業改善を推進する。

2 子どもの安心安全を支える専門性・システムの充実

（1）安心安全な医療的ケアの実施

医療的ケア校内委員会を中核として、安心・安全なケアの実施を徹底するとともに、教室でのケアを拡充して学習機会を確保し、学校生活全体の充実を図る。また校内の体制や校外でのケアを充実させることにより、保護者負担の軽減をはかる。

（2）健康な学校生活の確保

アレルギーや感染症等への対応について、迅速で組織的な対応の協議やマニュアルの見直し等により、適切かつ確実な対応に努める。

（3）人権を尊重した教育の徹底

教職員が高い人権意識を持つとともに、いじめや虐待について早期発見や予防等、関係機関と連携しながら組織的な対応に努める。

（4）防災体制の充実と危機管理体制の確立

学校防災マニュアルの見直しやより実践的な訓練の実施等、隣接する病院や行政機関、PTAとの連携を通じて、防災体制の強化をはかる。また、個人情報を含む書類等の取り扱いについて、その必要性や保管方法等を再検討し、情報管理の徹底をはかる。

3 地域とともにある開かれた学校づくりとセンター的機能の充実

（1）地域と連携した教育活動の充実

学校運営協議会を基盤に、学校・家庭・行政・福祉・地域等が協議・連携を深め、ICTも活用しながら地域を活動の場とした実践的・体験的な学習の充実に努める。

（2）交流及び共同学習の充実

居住地校交流や学校間交流の一層の充実を図るとともに、ICTを最大限活用しながら、県外を含む他の特別支援学校等との交流を進めていく。

（3）地域に向けた発信力の強化

ホームページやSNS等を活用し、学校の様子をタイムリーに保護者や地域社会に伝えていくことで学校教育への理解促進と啓発に努める。

（4）センター的機能の充実

病弱教育や肢体不自由教育に関することだけでなく、県内最大の医療的ケア児在籍校として医療的ケアに関することについても、地域のニーズに応じたセンター的機能を発揮する。

4 働きがいのある職場づくりの推進

（1）働き方改革の推進

学校運営組織の活性化と生成AIの活用をさらに推進して業務の効率化を図るとともに、一人一人がタイムマネジメントを実践する働き方を目指す。

（2）互いに高め合い、支え合う教師集団

教員一人一人が自己の課題と役割を意識しながら専門性の向上を目指すとともに、互いに支え合う同僚性の醸成により、働きがいのある職場づくりに努める。